

令和4年度 東京・千葉地区2国立大学法人 公共工事入札監視委員会 議事概要

開催日及び場所	令和4年9月13日(火) 東京工業大学 千葉大学 ZOOMIによるWeb会議により開催			
委員	委員長 清水 幹裕(弁護士) 委員 竹内 啓博(公認会計士・税理士) 委員 蟹澤 宏剛(芝浦工業大学教授)			
審議対象期間	令和3年1月1日から令和4年3月31日までに契約締結した案件			
	千葉大学	東京工業大学	(備考)	
抽出案件(合計)	4件	4件	今回の審議対象期間においては、再苦情の申立ては無し。  抽出案件の個別審議に当たっては、委員長を含む全委員が全案件の審議を行った。	
建設工事(小計)	3件	3件		
一般競争入札 (政府調達に関する協定対象工事)	0件	1件		
一般競争入札 (上記工事を除く)	1件	1件		
工事希望型競争入札	0件	0件		
通常指名競争入札	0件	0件		
随意契約	2件	1件		
設計・コンサルティング業務(小計)	1件	1件		
公募型プロポーザル方式	0件	0件		
簡易公募型プロポーザル方式	0件	0件		
簡易公募型プロポーザル方式(拡大)	0件	0件		
標準型プロポーザル方式	0件	0件		
一般競争入札	1件	1件		
随意契約	0件	0件		
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問			回答
	別紙のとおり			別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし			

質 問	回 答
<p>1. 千葉大学及び東京工業大学において発注した建設工事及び設計・コンサルティング業務について</p> <p>・設計・コンサルティング業務において、一般競争入札の落札率が、随意契約と比較して低くなっている理由は。</p>	<p>・随意契約と比較すると、競争が働いたため、落札率が低くなることになる。</p>
<p>2. 千葉大学及び東京工業大学における指名停止等の措置状況について</p> <p>・なし。</p>	
<p>3. 再苦情処理会議への申立状況について</p> <p>・なし。</p>	
<p>4. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議について</p> <p><u>①千葉大学(医病)エネルギーセンター等直流電源設備改修工事</u></p> <p>・本件は不落随契となっているが、情勢の変化による不落随契の傾向はどのようになっているか。</p> <p><u>②千葉大学(西千葉)理学部3号館屋上防水等改修工事</u></p> <p>・競争参加資格があると認められた6社中4社が、入札をしないで辞退しているが、辞退理由については確認をしているのか。</p> <p><u>③千葉大学(亥鼻)ライフライン再生(給水設備)改修工事</u></p> <p>・契約相手方は、不落となった2度の公告の際には入札に参加していた業者なのか。</p> <p>・不落となった後の随意契約の方式として、不落随契となる場合、緊急随契となる場合があるが、本件で緊急随契を採用しているのはなぜか。</p> <p><u>④東京工業大学(大岡山)大岡山南3号館他発電機更新工事</u></p> <p>・応札業者が8社いるが、落札業者以外の入札価格はどのようになっているか。</p> <p><u>⑤東京工業大学(大岡山)大岡山西5号館等新営その他工事</u></p> <p>・施工体制審査の内容は、下請業者の部分も含まれているのか。</p> <p>・施工体制審査を行おうとした際に、業者から資料の提出ができないとの回答があり、辞退とのことだが、そのことでペナルティは発生しないのか。</p>	<p>・千葉大学としては、不落随契を含む随意契約の件数が目立っている。東京工業大学では、下半期において不落随契が発生してきているが、千葉大学程顕著ではない。</p> <p>・辞退理由について確認は行っていない。</p> <p>・今後は、辞退者の多かった案件については、聞き取りを行っていきたい。</p> <p>・入札に参加していた業者ではないが、千葉大学での施工実績があった業者である。</p> <p>・本件においても、不落となった後に不落随契の協議を行った。協議が折り合わなかったため、3回目の公告を行うか検討をしたが、ライフラインに関わる工事であり、研究等への支障もありうると判断したことから、緊急随契で手続きを行った。</p> <p>・2倍以上の入札価格とする業者もいる等、金額にばらつきがみられた。</p> <p>・含まれている。</p> <p>・施工体制審査時における辞退は、入札を辞退した扱いとなるため、ペナルティは発生しない。</p>

質 問	回 答
<p>⑥東京工業大学(すずかけ台)G4-A棟改修機械設備工事</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不調随契を行った際に見積合せを行った2社については、なぜ入札に参加しなかったのか。</li> <li>・工事を分けて発注しているが、一般的なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に業者への確認は行っていない。</li> <li>・建築工事・機械設備工事・電気設備工事に分割して、発注することを基本としている。</li> </ul>
<p>⑦千葉大学(西千葉)工学部6号棟等耐力度調査業務</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定価格の作成にあたり、見積業者はどのように選定したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉大学との契約実績がある3社の内、最低価格の見積もりを採用した。その見積書からもさらに安価な契約金額となったのは、見積もりをとった業者が調査の他、設計等も行う業者であったのに対し、契約に至った者が調査業務に特化した業者であるからであると思われる。</li> </ul>
<p>⑧東京工業大学(大岡山)本館改修(VI期)設計業務</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・落札率が低いが、適正な履行ができる業者であるのか事前に確認をしたか。</li> <li>・入札金額が低くなっているのは、プロポーザル方式ではなく、最低価格落札方式を採用したことに依るのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定価格が1,000万円未満であり、低入札価格調査の対象外であるため、事前調査はできず、最低価格で応札した業者が契約相手方となる。</li> <li>・そのように推測される。金額での競争が発生すること、また手続きの煩雑さが減ることから参加者が増えることによるものと思われる。入札方式は学内で十分な検討を行い、最低価格落札方式を採用した。</li> </ul>

<p>委員講評 (東京・千葉地区2国立大学法人全体について)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な総括として、東京・千葉地区2国立大学法人共に問題なし。</li> <li>・引き続き低入札調査価格を実施するなど、工事の品質保持に努めること。</li> <li>・今後とも適切な契約業務を執り行うこと。</li> </ul>